

令和6年度阿倍野区政会議福祉・健康づくり部会でのご意見と対応一覧(令和6年7月19日開催)

[分類]

- ①当年度(6年度)において対応(対応済み含む)
- ②7年度に対応予定
- ③7年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④その他

番号	意見内容(要約) (公表)	対応(回答) (公表)	分類
1	<p>【地域福祉活動について】 身近に暮らす住民の存在や変化を気にかけるということは、課題だと思う。取り方によったらおせっかいだということもあるし、気にかけないといけないとなると、誤解を生む恐れがある。 (今井委員) 例えば、地域の認知症の方が徘徊している場合、地域の方がその人を知っていれば、服装の乱れなどを気にかけることが重要である。 民生委員として具体的な事例を知っているが、一般の方には分かりにくいので、具体的に書くべきである。社会のつながりが希薄な世帯や生活困窮者、認知症の方の存在の変化を気にかけることが必要だが、常に見ていないといけないと誤解される可能性がある。文言を「お困りの方をお見かけしたら」などに変えると分かりやすいのではないか。 (波多野委員)</p>	<p>みんなで支えあう地域づくりを進めていくために、近所にお住まいの方の小さな変化に気づくことができるように、日頃からお互いに迷惑に感じない範囲で気付きあうことができる関係性を築いていくことが重要だと考えます。</p>	④
2	<p>【地域福祉活動について】 地域福祉活動に参加したことがあるという方の割合が、20何%とあるが、自分が普段、地域福祉活動をしているという意識がなくてもやっているのではないのかなと思う。 そういう視点で、地域全体を眺めていくということも大事なことで、地域の中で意識して見て、盛りあげていこうというようなことかなと思う。アンケートだから数値になるとは思うが、ただ、それだけではない。いろいろな関わりで、いろいろな暮らしの中で、地域福祉活動をみなさまがやっているという目をまずは持つことかなと思う。 (今井委員) 一つの行動を区民の方が見て、自分としては当たり前のことをしていただけだけれど、その行動を見た人からしたら地域福祉活動になっている、ということはしばしばあると思う。そういう活動を見ていただくことも一つのPRになるかと思う。 (波多野委員) 根本は教育だと思う。阿倍野区福祉教育プログラム集を教育現場に配布したら終わりということがほとんどだと思うが、その教材にどんなことが載っていて、どんな願いが込められているのかを共有し、どうふう活用されているのかを把握する必要があると思う。それをふまえて教員が自由に展開していくことだろうと思う。 実際に授業をしながら、この辺りがやっぱり弱いなと違うかとか、あるいはここが優れてるよというようなことをやっていくと、行政と教育がうまくタイアップでき、福祉教育がより充実するように思う。 (白石委員) 地域福祉活動がどんな活動か理解していない人が多い。 ふれあい喫茶や食事サービスや子どもの見守りをしていることが、地域福祉活動に参加しているということに気がついていない人が多い。 活動している方は、地域福祉活動をしているという意識はないと思うので、地域福祉活動を知っているかとアンケートで聞かれたときに、地域福祉活動をしているにまらはないと思う。 (家永委員) 福祉に関心を持つように、活動を知っている方を増やすことで、こんなことをやっているのかとなり、地域福祉活動に参加しようかなという気持ちになると思う。 (波多野委員) 地域福祉活動を担う部会が、地域によっては違うので温度差があると思う。 男性の方もなかなか参加されない。男性の方は、極力地域福祉活動に関心を持っていただきたい。 やはり女性が多いので男性が入っていきにくいと思う。男性も活動に参加しているよとPRしていただきたい。 (波多野委員) 人数が少ないとか、広がらないとか、いろいろ出ているが、それでも一つの地域にとってみたら、やっぱり何十人かの人たちが動いている。それは本当に気持ちを持って、地域のみなさまの手助けにちょっとでもなるようなことをやろうという気持ちを持ってやる人がいることがとても大事なことで、どうやって広めていくかという目線で、やっていけばいいのではと思う。 町会の役員が少なく、成り手が少ない。現役の人たちは、忙しいので、役員をやること自体が難しいが、そんな中でも、やっぱり1人、2人とやってくれる。そういう人たちをこつこつと広げていくというのが町会の今の役割であり、それと同じことで、本当にこつこつ、食事サービスやふれあい喫茶をやり続けることがとても大事なことだと思う。 (今井委員)</p>	<p>福祉活動を行っている自覚のない方への自覚を促し、また現在地域福祉活動に関わっていない方の意識を高め行動につなげていくために、広報紙等での情報発信や、あべのカーニバルなどの多くの区民の方が参加する行事等で啓発に努めます。</p>	①
3	<p>【地域福祉活動について】 地域福祉活動に参加する人を増やしたいということで、参加していない人は、どんな活動をやっているかどれが地域福祉活動か知らない、紙で読んだところで、参加しようとはなかなか思わないので、具体的に地域福祉活動を見るなり、お誘いがある参加するなり、何かしないと参加者は増えないと思う。参加している人たちが参加しそうな人をお誘いして、見るだけでもいいから来てもらう形で地域福祉活動を見てもらい、一緒にやると参加が増えると思う。 (潮見委員)</p>	<p>地域福祉活動の例として、子どもの登下校の見守り、ふれあい喫茶、高齢者食事サービス、子育てサロン、こども食堂、いきいき百歳体操など取組みを掲げていますが、ボランティアなどに参加したことのある方の割合は、22.3%(令和5年度実績)で、地域福祉活動に関わる方は増えておらず、少しでも地域福祉活動にふれていただけるよう意識の啓発を続けてまいります。</p>	①
4	<p>【地域福祉活動について】 「3-1のみんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」について、要援護者ほど自分はまだまだ大丈夫と思っていたり、複合的な課題を有する人こそ、自分は福祉の対象ではないと思いついていたりするように感じている。 自分は特殊詐欺には遭わないと思いついていたりするように感じている。身近な大切な人に教えてあげましょうというような間接的な呼びかけでニーズをあぶり出す必要があるように感じた。 フェーズフリー※の推進として、障がい特性や高齢者特性など、地域が抱える課題に合わせた形で、まちなか防災訓練を行う際に地域福祉の重要性をもう少しアピールしても良いのかなと思う。 ※フェーズフリーとは、平常時と災害時というフェーズ(段階や状況)の区分けをなくし、日常的に利用している商品やサービスを、そのまま災害時にも利用できるようにするという考え方です。 (金光委員)</p>	<p>広報を行う際に表現方法の参考にさせていただきます。 要援護者名簿は、平時の見守りに活用し、災害時には、安否確認などに活用されます。 また、名簿に登録されている方の中で、避難する際に介助が必要な方を対象に作成している個別避難計画について、発災直後の救助活動等に活用されます。 平時・災害時を通して、要援護者名簿や個別避難計画は、有効であると考えており、要援護者名簿へ登録していただけるよう防災訓練などで啓発してまいります。</p>	①

[分類]

- ①当年度(6年度)において対応(対応済み含む)
- ②7年度に対応予定
- ③7年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④その他

番号	意見内容(要約) (公表)	対応(回答) (公表)	分類
5	<p>【地域福祉活動の情報発信について】</p> <p>地域活動への参加について、「広報あべの」を見て、掲載されている行事に参加したいと思う方もいると思うが、まず地元地域で老人会の方々が主催する、百歳体操等の行事を、実際に見学したり、チラシを見たりすることで、参加したいと思う方もあると考えるので、行事の案内を地域でどう発信したらいいかなと思う。</p> <p>食事サービスに関しては、年に1回チラシを400枚作って配布するが、なかなか参加者が集まらない。</p> <p>女性部長やボランティアも含めて登録者は45、6名になっているが、参加者は21名ぐらい。明日も食事サービスがあるが、参加者は14名に対しボランティアが21名で、ボランティアの方が人数が多い状況。参加者が少ない場合でも断れないので、食事サービスはにぎやかにやっている。地域の活動を一生懸命やっているが、なかなか参加者が少ない状況だ。</p> <p>(稲森委員)</p>	<p>広報あべのでは毎月各地域の活動を紹介する記事を掲載しており、活動を紹介されているLINEやInstagramのQRコードを掲載し、各地域の方に見ていただけるよう啓発を行っています。</p> <p>また、阿倍野区社会福祉協議会では各地域の集いの場マップを作成し、地域で開催されている百歳体操や高齢者食事サービス事業等の開催日をお知らせしています。</p> <p>今後もより多くの区民の方に地域の活動を知っていただけるよう広報に努めます。</p>	①
6	<p>【地域福祉活動の情報発信について】</p> <p>広報紙で、繰り返し同じことを周知するとか、お困りの方には具体的にわかりやすく呼びかけてあげないと、全然気がつかないことが多々あると思う。広報紙の紙面を増やすなり、いい活動を紹介するとやってみたいと思う方もいると思うので、広報が大事だと思う。</p> <p>(井上委員)</p> <p>広報紙には、高齢者月間だけではなく、毎回載せてもいいと思う。みなさまにお知らせしていくというのは大切だと思う。</p> <p>知っている者は知っている、見ない者は分からない。見ないから、分からないから、知らないじゃなくて、深く知ってもらいたい。</p> <p>区政会議委員も情報を広めていく一つと考えてもらい、広く周知する方法を考えてほしい。</p> <p>(波多野委員)</p>	<p>広報紙について、現在は全戸配付させていただいており、区内にお住まいの方に毎月ご自宅にお届けしているので効果は絶大だと考えます。</p> <p>福祉の取組で9月の高齢者月間などであれば、広報紙の紙面スペースを大きく取って記事を書けることができますが、毎年同じ内容を繰り返し掲載するだけではなく、今年は地域の特徴的な取り組みについてクローズアップしてPRすることも検討します。</p> <p>また、繰り返し広報を続けることは大事なことです。広報紙の紙面には限りがあり、恒常的に記事を掲載することは難しい状況なため、他の媒体を使って広報を行うことも検討します。</p>	①
7	<p>【地域福祉活動の情報発信について】</p> <p>防災訓練は、東南海地震が、非常に身近に感じると思うので、参加への興味は高いと思う。ふれあい喫茶や食事サービスは、地域の温度差があると思うが、全く顔を見ない方とお会いできて、参加してみると楽しいこともあるので、参加するにはどのようにすればよいか、いつ開催するのかなどを広報したら、行きやすいと思う。広報紙は紙面が限られているが、具体的に広報すれば地域の方が行きやすいと思う。</p> <p>(波多野委員)</p> <p>広報紙の紙面に制約があるならば、私自身が発信していくべきと思う。私が百歳体操に参加して、そこで感じたことなどを発信していけたらと思っている。</p> <p>(井上委員)</p>	<p>地域福祉活動の参加者を増やすには地域での呼びかけが重要です。</p> <p>福祉的な取組としては、障がい者施設の方の会議で、自分が働く地域の防災訓練などに参加して、問題点等を検討して有事に活かすために参加したいと表明されています。</p> <p>地域の方と、団体や事業所の方をつないでいくのは区役所の役割だと考えています。</p>	①
8	<p>【高齢者食事サービス等への参加について】</p> <p>高齢者の方が、食事サービスに月1回会館へ来て参加しているが、デイサービス等にいらっしゃる方などは、食事サービスに参加するために遠くに住んでいるお子さんが休んで付き添うよりも、週に何回か行っているデイサービスに行くほうが安心だという声を、ケアマネージャーに言われたことがあり、高齢者に会館まで来てもらうことは無理かなと思っています。</p> <p>食事サービスに関しても、地域活動協議会の補助金の対象となり、このまま続けていっていいものか、私たちもどうしていくか考えているところである。</p> <p>食事サービスに限らず、防災訓練など、どうしたらみなさまが参加ができるような魅力的なお声かけができるのかなと考えている。</p> <p>(稲森委員)</p>	<p>現在、高齢者食事サービス事業については、高齢者の方を対象としていますが、地域によっては高齢者に限らず親子連れなど、いろいろな世代の方が参加できる、集える場として食事サービスを開催されている地域もあります。</p> <p>参加者が減少傾向にある地域もあるとお聞きすることもあります。区からの補助金について来年度から事業の対象者を高齢者はもちろん、より多くの方を対象に事業が展開できるよう改めることとなりました。</p>	①
9	<p>【要援護者名簿について】</p> <p>災害時等における要援護者への支援について、名簿作成の際にプライバシーの問題をどういうふうには押さえているのか教えてほしい。</p> <p>しっかりと支援しなければいけない人を前もってマークしておくことは、すごく大事なことで、個人の様々な情報に関しては十分な配慮が必要だと思う。</p> <p>(白石委員)</p> <p>要援護者名簿について、自分が望むならば、社会福祉協議会で申請書を提出していただければ、要援護者名簿に登録される仕組みとなっている。</p> <p>内容については守秘義務が守られる。近隣で要援護者名簿に登録したい方がおられたら、民生委員や社会福祉協議会の見守り相談室に申し出れば、要援護者として登録することができる。</p> <p>ただ、要援護者名簿を知らない方がいるということは、要援護者名簿の取り組みが大事なことであるということをもう一度、広く発信する必要があるかと思う。</p> <p>(波多野委員)</p> <p>組織では、皆が共有しなければいけない情報があり、それは絶対に漏らしてはいけないものであり、どんな組織でも同じだと思う。</p> <p>名簿についても、本人の意思を確認したうえで、記載した情報を受け止める。意思を表明できない方の対応はどうか。</p> <p>(白石委員)</p>	<p>要援護者名簿の対象者については、大阪市で障がい者や要介護度の高い高齢者がピックアップされ、社会福祉協議会の見守り相談室から名簿への登録にかかる案内文書をご本人に送付しています。</p> <p>案内文書で見守り活動を担う方及び地域役員への本人情報の提供について、同意された方のみ要援護者名簿に登録されています。</p> <p>対象者自身が申込書に記入できない場合や意思表示が困難な場合は、各地域の民生委員や地域福祉コーディネーターが親族やケアマネージャー等の協力を得ながら申請しています。また、名簿管理者には個人情報漏洩することがないように、取り扱いを徹底するようお願いしています。</p> <p>要援護者名簿の取り組みについては、これまでも地域の会議などで情報発信しておりますが、今後もより多くの方に取組を知っていただけるよう繰り返し情報発信を続けてまいります。</p>	①
10	<p>【つながりづくりについて】</p> <p>「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」ということであるが、支援が必要になる前に地域でつながっていないと難しいのではないかと考えている。</p> <p>支援が必要な人というのは、人との付き合いが下手な人が多いので、仕事をリタイアした時点ぐらいで何かに参加ができて、つながっていけばいいのかなと思うが、特に男性の場合、仕事をリタイアして、そのまま家で閉じ籠もっているというのが多いかなと思う。</p> <p>家から出して、集まれば、支援を必要な人を把握しやすくなると思う。会社を辞めた後、何もしないという人に対して手を差し伸べるというか、その辺が足りないように思う。</p> <p>(潮見委員)</p>	<p>清明ヶ丘地域などでは、「男のつどい」として、仕事をリタイアされた男性が月に何度か集まって、地域の祭りに自分たちで出店することを検討したり、みんなでご飯を作って食べましようといった取組みなどをされています。こうした地域の取組みについて、区役所でも情報発信などこれからもお手伝いしていきたいと考えています。</p>	①

[分類]

- ①当年度(6年度)において対応(対応済み含む)
- ②7年度に対応予定
- ③7年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④その他

番号	意見内容(要約) (公表)	対応(回答) (公表)	分類
11	<p>【地域コミュニティづくりについて】 つえをついた高齢者や手押し車を使って通行してる人をよく見る。最近、外国人が近所のマンションに結構固まって住んでいて、一つの社会ができています。習慣の違いがあり、新しい環境ができてきているが、実際にコミュニティをどうするか、言葉も通じないし、高齢でなかなか動きが取れないので、地震が来たら右往左往するしかないのかなと思う。 いろいろな機関の人たちとつながって、困った時に相談ができる体制を地域の中で作っていく必要があると思う。 支援が必要な人たちがたくさん増えて、その一方で、働いている人は忙しくて昼間はいない状況で、なかなか複雑な問題がいろいろ出てきて、相談できる体制を1歩2歩でも前に進められたらいいと思う。 (今井委員)</p>	<p>外国籍の方や高齢者など、現在阿倍野区に住んでおられる方同士のつながりが希薄だということはどうしていかという、大きな課題だと認識します。こうした課題をどうしていけばよいか、福祉・健康づくり部会だけでは答えは出ないかもしれませんが、引き続き、検討していかなければいけないと考えます。</p>	①
12	<p>【健康づくりイベントの周知について】 「3-2の地域ぐるみで誰もが元気に暮らせる健康づくり」について、広報紙では、毎月、食育につながる「あべのカフェ」のコーナーや、「今月は〇〇月間です」という案内があるが、「今月は階段使用を推奨する月間です」というような健康に関するコーナーもつくって見たらどうかと思う。 (金光委員)</p>	<p>紙面の問題もありますが、健康づくりの推進に向けて広報を行う際の参考にさせていただきます。</p>	①
13	<p>【健康づくりイベントの周知について】 健康寿命の延伸につながるよう、作業療法士や薬剤師さんにもご協力いただいて、通勤や通学時間を利用したプチ健康づくりイベントの案内を区広報紙で紹介することも、イベントの担い手の意識向上と区民の健康意識アップの両方に効果があるように思う。 (金光委員)</p>	<p>健康づくりのイベントの案内については、広報紙だけではなくホームページやSNS等でも案内しておりますが、今後イベントを広報する際の参考にさせていただきます。</p>	①
14	<p>【事業のターゲットについて】 私は大阪府の食育にも関わっており、食育を展開する行事にも関わってきた。また、公衆衛生学を専門としているが、その中で「個人」と「集団」というものの考え方を分けてやっていくというものがある。区政会議に参加してみて、区政会議福祉・健康づくり部会というのは、集団で捉える場合もあるだろうし、個々で捉える場合もあるため、その両方を合わせていくと、うまくいくのではないかなと思っている。 (白石委員)</p>	<p>食育事業につきましては、子どもの保護者向けの事業をメインで行っておりますが、男性の料理教室も行っております。出てこられる方は年配の方が多いと聞いておりますが、みなさまで料理をして、すごく人気があると聞いております。そういった趣味と実益を兼ねた活動をもう少し広げていけたらと考えます。 集団と個という話がありましたが、健康づくりについては、基本的には個々の健康づくりというのがベースとしてある中で、あべのウォークやいきいき百歳体操といったイベントを、みなさまが集まり集団で行うことによって、健康づくりの相乗効果を生み出してまいります。</p>	①
15	<p>【不登校の対応について】 学校になじめないなどの悩みを抱えた子どもの居場所として、今はまだ木曜日だけのびあ・ほーむを月曜日にも拡大していただけたらうれしく思います。びあ・ほーむが難しい場合には、クールダウンできるスペースの利用だけでもご検討をお願いしたい。家にも学校にも帰れず、人気のない学校周辺をうろついて、非行や犯罪に巻き込まれたりする子どもを未然に防ぐためにも、早急にご検討をお願いしたい。 (金光委員)</p>	<p>不登校の居場所「びあ・ほーむa(エー)」につきましては、同じ悩みを抱える子どもたちが集まることによって、一定の効果を発揮すると考えております。また、木曜日に開設していることを周知していることや、スタッフの体制の問題等もありますので、月曜日に拡大することは難しいと考えております。なお、クールダウンするための個別相談はいつでも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。</p>	④
16	<p>【地域活動について】 広報紙でも、町会に入りましょうという記事があり、みなさんに町会に入ってほしいと思っている。地域活動協議会の活動は、町会に入っていない人も、みんなが参加でき、敬老の日などは記念品がもらえるんだと思っている方もおられるようで、町会加入の声かけがすごく難しいなというところはある。 (稲森委員) 町会に加入していないと情報が入らないことが結構あると思う。 (波多野委員) 文の里地域は、地活協も地域振興会も最初からずっと一つでやっている。 文の里は地域内に、幼稚園二つ、高校二つ。ただし、義務教育の小学校と中学校がないので、PTA活動や、学校を借りることができないため、お互いが助け合って、何かあったら幼稚園を借りる、高校を借りるということで、お互い助け合っている。ただ、若手のボランティアがいなくて、地域活動をされている方の息子さんや娘さんが担っているのが現状である。 (家永委員) 地域活動協議会ができるということになったときに、連合町会は徐々になくなって、地域活動協議会に一本化になるのかなという話を聞いていたので、今やっていることに関しても、地域活動協議会の防災・防犯であるとか食事サービスもやっていて、今日はどっちの活動に参加しているのかわからなくなるようなことがある。 (稲森委員)</p>	<p>大阪市として、本年3月に「大阪市町会加入促進戦略」を策定し、阿倍野区としてもアクションプランを策定し、町会の加入促進の取り組みを進めています。 町会は住民にとって身近な存在で、特に発災時には、日頃から顔の見える関係ができていれば、それが住民同士で命を守るというところで有効になってくると思います。そういったところも訴えて、町会の加入促進に取り組んでまいります。</p>	①
17	<p>【将来ビジョンについて】 防災は具体的な取組みなので分かりやすいが、福祉活動については、イメージが湧いてこない。 「3-1 みんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」の「今後の施策展開の方向性」とこの「成果目標」との関係で、施策を推進するために成果目標「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」がどう関連するのか。全体のイメージが湧いてこないの、具体的に地域が何をしていくか、どうしたらいいのかと思っている。 (今井委員)</p>	<p>今後の施策展開の方向性には、多くの方々が、地域福祉活動に関わることや適切な支援につなげる取組を行うことなどの課題解決の方向性を掲載しており、その課題解決に向けた進捗度合を成果目標によりチェックしています。 具体的には、日ごろから地域の方が取り組んでいる地域福祉活動として、子どもの登下校の見守り、ふれあい喫茶、高齢者食事サービス、子育てサロン、こども食堂、いきいき百歳体操など取組みを掲げていますが、ボランティアなどに参加したことのある方の割合は、22.3%(令和5年度実績)で、地域福祉活動に関わる方は増えておらず、今後の施策展開の方向性に沿って取組みを進めてまいります。</p>	①